

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

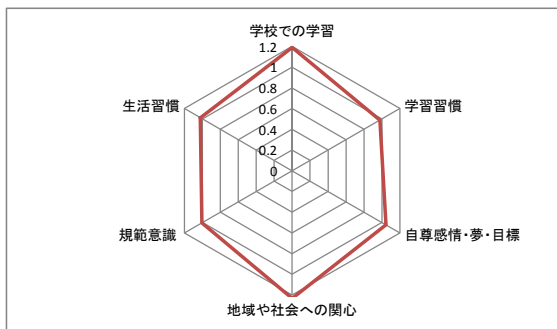
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	すべての調査項目の中で、最も全国平均より高い正答率である。設問を個別に見ても、全ての問題において正答率が全国平均を上回っていた。全体的によく理解できている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	相手や目的に応じて説明した会話文の意味を考える問題、文中の主語・述語の関係に注意して文を書く問題	
	努力が必要な問題	漢字(同音異義の漢字)の問題	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全ての問題において正答率が全国平均を上回っていた。特に、文章を読み取る問題や文章を書く問題ができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	質問の意図を捉える問題、複数の本や文章を読んで意味を理解し読み取った理由を条件(一つ)の中で書く問題	
	努力が必要な問題	複数の文章を読んで、「おすすめする文章」を(複数の)条件の中で書く問題	
算数A	全体的な傾向や特徴など	14問中13問の問題において正答率が全国平均を上回っていた。どの領域も万遍なく理解できている。百分率や図形の角度の問題など飛びぬけて高い正答率のものがある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	百分率を求める問題、角度を求める問題、空間の位置を言葉で表す問題	
	努力が必要な問題	重さと長さの関係を数直線をもとに考え立式する問題	
算数B	全体的な傾向や特徴など	10問中8問の問題において正答率が全国平均を上回っていた。残り2問も、全国平均とほぼ同等の正答率であり、概ね理解できている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	示された考えを解釈し、条件を変更して数量の関係を考慮して、分配法則の式に表わす問題	
	努力が必要な問題	棒グラフと帯グラフの両方から読み取ったことを適切に表現する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	16問中13問の問題において正答率が全国平均を上回っていた。復習を要する領域がひとつあるが、それ以外の内容についてはよく理解できている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	土地のつくりとその働き、実験結果をもとにした分析に関する問題	
	努力が必要な問題	人体の仕組み(骨と骨とのつなぎ目についての知識、模型を使った腕が曲がる仕組み)に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

どの調査項目(観点)も、平均値を上回っており、課題は見られない。特に、「学校での学習」「地域や社会への関心」が高い数値を示している。大学・商店などの地域の教育力を生かした学校行事や市民センター等と連携したPTAによる行事などの実施を通して、昨年度課題となっていた「地域や社会への関心」が改善されたことは望ましい。自尊心が高く、夢や目標をもっていることもよい。家庭での学習が、自学ノートなどを使ったより自主的なものになるよう指導・啓発する必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

本年度から、5日間の朝自習のうち2日間を国語の基礎(音読・読書)に関する自習とした。それが国語科の結果の向上につながったと考えている。今後は、その定着と質の向上を図っていく。理科で課題の見えた内容について、卒業までに確実に復習をする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自主的な家庭学習に課題が見られる。全校で発達段階を考慮した宿題の在り方について共通理解し、上級生でより自主的な家庭学習ができるよう取り組む。合わせて、学校だより、学年通信などで家庭への啓発をする。現在、英語科(リーディング)を中心に小中の連携を図っているが、他教科にも広げていく。また、「あいさつ運動」等の連携も図っていく。